

# 令和4年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	今村	金澤

**理念** すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。

**方針** 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。  
2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。  
3. 地域のさらなる開花を目指します。

令和3年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和3年度 事業所の振り返り（評価）
1.稼働率の低下および※低迷（介護老人・訪問・※通所） 2.退職者の増加（26名/年）と応募者の増加（56名/年） 3.ICT・介護ロボットの積極的導入（勤怠管理システム・タブレット記録システム・LINEWORKS等） 4.内部監査・顧客満足度調査・運営状況監視システムの確立 5.外国人スタッフ・介護助手・就労訓練事業者の採用と定着 6.キャリアデザインに応じた働き方の選択不可（職種一律での給与モデル）	1.入所申込件数が過去平均より増加した（3月時点で53件） 2.グループを寒川の地名に変更し、掲示物（看板・今と昔の写真）の掲示。行事（寒川の日）を開催。 3.ヒヤリハット件数は増加したが、事故報告件数が増えた。（17件中、10件が薬のミス） 4.個々の介護スキルのレベルを各自アップできた。中途退職者には実施できていなかった。 5.ICT・介護機器（絆・サスケ）を導入しているが、機能を活かしきれていない。 6.退職者はいたが、向上心がある職員が在籍している。また、外国人職員の活躍が予想以上であった。

**法人目標/法人・事業所・個人の『強み』を理解（分析）し行動に移す。**

『強み』を正確に理解（知る）し、寒川ホームの経営・運営・ライフデザインに活用する。【歓喜・革新】

『強み』を活かし選ばれるサービス（稼働率アップ）提供・人材定着（採用）・地域貢献活動を実施する。【歓喜・革新・開花】

<b>介護老人福祉施設 事業目標</b>	1.ADLに合わせたレク・地域との関わりある活動を行い、サービス（稼働率）アップと地域貢献に繋げる。【歓喜・革新・開花】 2.教育（ICT・介護機器の指導・面談等）の時間を確保し、サービスの質の向上と職員の定着に繋げる。【歓喜・革新】 3.個々の介護スキルをレベルアップ（強みの強化・弱みの改善）をする。【歓喜】
<b>具体的な達成（目標）数値</b>	1.業務内容（動態表）を一新し、余暇活動（ADLに合わせたレク・地域交流）と教育（ICT・介護機器の指導・面談等）の時間を確保する。 ■余暇活動：前年度より月間活動報告書の実施回数が増える ■紙の記録（ケース記録・日誌・引継ぎ・業務連絡票等）を介護記録のICTへ移行し記録の時間を減らす。 2.教育（面談・話し合い等）の時間を作る。結果、介護スキルを各自がレベルアップできている。薬関係（誤薬・服薬忘れ）の事故報告がない。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①業務内容の変更 ②散歩の実施（金ご利用者） ③サスケの使用（対象グループ）	①②入浴に関する業務変更を行い、余暇時間に当てられた。 ③一之宮グループ対象に行い、操作方法を習得する。	7月 アクシデント検討方法の変更	書面でも意見収集したことで改善策の早期立案に繋がる。
5月 ①ADL別の居室移動 ②美化清掃 ③介護記録（絆）の説明・移行	②外国人スタッフも美化清掃に参加 ③ケース記録を絆に移行するため説明を行う	8月 介護スキルの確認	施設内クラスターが発生のため面談等は実施できず。 勤務表をラインワークスで投稿開始。紙と配布時間の削減に繋がる。
6月 介護記録（絆）の説明・移行	ケース記録を絆で行い、紙の削減に繋がる。	9月 介護記録（絆）の説明	クラスター時に記録時間が増える。日誌も絆への移行準備をする。
<b>上半期評価</b>	業務内容の変更により時間を作ることができ、ICTの活用やレク時間に当てることが出来た。クラスター発生によりICT（ラインワークス・絆）の必要性が高いことが分かる。		
10月 介護記録（絆）への移行	日誌も絆での記録に変更し、記録時間の削減に繋がる。	1月 業務内容の変更	時間抽出のため業務内容の見直しを行うもプラスαの活動はできず。
11月 介護スキルの確認	確認のための日程調整を自主性にするも、数名からしか声が掛からず。また、評価のために勤務を抜けることが難しく評価方法の見直しが必要。	2月 業務内容の変更	時間抽出のため業務内容の見直しを行うもプラスαの活動はできず。
12月 介護スキルの確認	クラスターのため数名の評価しか行えず。 全居室にベッドセンサーの導入するもクラスターのためパソコン設定まで至らず。	3月 振り返り	介護スキルのレベルアップのための取り組み、評価を業務内で実施することが困難であった。
<b>下半期評価</b>	業務の効率化は進んだが、入浴提供に時間を要し余暇活動や教育の時間を十分に持つことができません。		

**実績・達成度（目標との比較）**

業務内容の見直しは行ったが、下半期は定期的な余暇活動を行うことができずサービスの質が向上したとはいえない。また、4月入職者は定着したが勤続年数5年前後・入職直後・外国人スタッフの退職が続き定着には至らず。事故報告は6件中1件が誤薬。事故件数は減少しているが改善策の検討の場を十分にとれていた訳ではないので取り組みの成果とはいえず。前年度よりICTの導入は進み記録時間が短縮され業務の効率化に繋がった。

# 令和4年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 短期入所生活介護 事業計画書・報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	高野	高野

<b>理念</b> すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	<b>方針</b> 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

<b>令和3年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）</b> 1.稼働率の低下および※低迷（介護老人・訪問・※通所） 2.退職者の増加（26名/年）と応募者の増加（56名/年） 3.ICT・介護ロボットの積極的導入（勤怠管理システム・タブレット記録システム・LINEWORKS等） 4.内部監査・顧客満足度調査・運営状況監視システムの確立 5.外国人スタッフ・介護助手・就労訓練事業者の採用と定着 6.キャリアデザインに応じた働き方の選択不可（職種一律での給与モデル）	<b>令和3年度 事業所の振り返り（評価）</b> 1.稼働率に関しては特養の空床を利用することで短期としては毎月100%以上を達成することが出来たが特養との合算では稼働率の上昇に繋げることは出来なかった。 2.今年度に関しては藤沢方面の新たな居宅事業との関係を多く増やすことで新規の依頼が更に増加したことは評価できる。（そのことが稼働率アップにも繋がった） 3.ICTの活用に関しては予約システムの導入を目標に置いたがケアマネとの直接のやりとりの方が信頼と信用を築きあげられることから導入は見送った。
--	--

<b>法人目標/法人・事業所・個人の『強み』を理解（分析）し行動に移す。</b>	
『強み』を正確に理解（知る）し、寒川ホームの経営・運営・ライフデザインに活用する。【歓喜・革新】	
『強み』を活かし選ばれるサービス（稼働率アップ）提供・人材定着（採用）・地域貢献活動を実施する。【歓喜・革新・開花】	

<b>短期入所生活介護 事業目標</b>	1.マンネリ化を打開し日々目的のある生活の場の提供を行う。【歓喜・革新・開花】 2.各自の技術を上げると共に強みを上げる取り組みを各自が行う（取り組みを行うことで強みの共通認識・向上ができる）【歓喜】 3.24時間予約受け付け体制を整備し選ばれる事業所を目指す。【革新・開花】
<b>具体的な達成（目標）数値</b>	1.各職員が月間活動計画（個人）を作成し短期入所を利用する目的をご利用者様に作り上げる（各自、担当2名以上 目標設定し目標が達成されること） 2.目的のある短期入所を新たな強みの1つとし新しい短期入所生活介護の在り方を作り上げる（該当者の居宅のケアプランに繁栄されていること） 3.予約システムを作り上げ24時間365日タイムリーに確認できるようになっている。（評価基準：前年度より稼働率アップ）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 1 に対する担当月の決定	実施できる日時や時間の調整を行うことのみで担当者への決定まで至らず次月に持ち越しとなってしまう。	7月 1 月間活動開始 3 導入材料の見極め	1クッキングを実施。日曜日の実施となったが他の曜日での実施には至っていない。全体に行う必要がある。 3インターネットから数件候補を出す。
5月 1 に対する担当月の決定	リーダーを中心に月間計画の立案、作成を各自で行った。各自レクやクッキング、壁紙作りといった以前行っていた内容となっているがまずは実施してから評価とする。	8月 3 ICT導入へ向け	候補に出た数件の会社から必要性、便利性の確認を行う。
6月 1 個別計画作成 2 利用者への聞き取り	1計画書の作成ではなく月別の実施職員表を作成し月ごとに担当者が行うようにし全体で確認できるようにしたこと互いに実施漏れを無くしたことは評価できる。2に関しては実施できていない	9月 月間活動見直し	営業中止期間で月間計画の実行ができなかったため、月間計画を見直し目的が作り上げられるのか各自見直す期間とした。
<b>上半期評価</b>	1については担当月を決め各自が考案した内容を実施したが今まで行った内容との大きな変化は見られず。個別ではなく全体に行う内容に変更となってしまう。但し利用者は楽しんでいる様子もあり1部評価はできるが全体に行えていないことから不公平感が出てしまった。2についてはショートとして求められるのはレスパイトがほとんどで2の実施は見送りとし、1の内容を継続することで2に繋がれるとの評価とする。		
10月 1 月間活動 3 実施見送り	3について、空き状況の確認は基本的には日中であり、相談員不在時でも他の相談員（特養）で空き具合の確認は行え対応出来ることからお金をかけてまで行う必要性は無いと判断	1月 グループ活動実施	ただの体操ではなく動画配信サイトを利用したり、デイサービスで行っている体操やレクを取り入れ新しい刺激を与えられた事は良かった。しかし毎日の実施はできていなかった。
11月 1 月間活動	月間活動表の作成が出来ていなかったがクッキングを中心に実施。前期で評価したように日曜日の実施のみとなった。他の曜日は入浴や他業務の関係から実施に至らず。	2月 グループ活動実施	1月同様に所属スタッフではないスタッフの場合、業務内容の把握を優先し毎日実施とはならず。引継ぎも曖昧な部分が出てしまった。
12月 月間計画見直し	個別での実施について職員の要請から個別ではなく全体に向けて（11月のように）行える内容に変更。	3月 業務内容見直し	有効な時間を作る為に業務内容を再度見直し活動中心に行える時間を確保実施。会議から業務内容を変え4月からの活動表の導入を行うようにした。
<b>下半期評価</b>	後期について、元々目標であった内容から大きく変わってしまった。個別で行う内容から全体での取り組みに変更となってしまう。グループ所属でないスタッフの勤務や営業が一旦中止となったことも影響はあるが引継ぎをしっかり行えていれば元々の目標は行えた可能性もあった。		

**実績・達成度（目標との比較）**

1について、当初は個別で各自2名を行う予定だったが職員の変動もあり全体に対しての活動に変更となってしまった。毎日の実施にも至らず達成は出来なかった。しかし来年度に向け活動時間の再見直しを3月に行ったことで4月からの時間の確保はできた。 2について、目的のあるショートステイを目標としたが1年間を通して変わったことはなく実行もほとんどできなく未達成となってしまった。 3については、居宅との情報共有や夜間帯での受け付けの必要性が感じられず今年度は導入は見送った。全体的に全て達成には至らなかった。

# 令和4年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 通所介護 事業計画書・報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	植田	植田

<b>理念</b> すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	<b>方針</b> 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和3年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和3年度 事業所の振り返り（評価）
1.稼働率の低下および※低迷（介護老人・訪問・※通所） 2.退職者の増加（26名/年）と応募者の増加（56名/年） 3.ICT・介護ロボットの積極的導入（勤怠管理システム・タブレット記録システム・LINEWORKS等） 4.内部監査・顧客満足度調査・運営状況監視システムの確立 5.外国人スタッフ・介護助手・就労訓練事業者の採用と定着 6.キャリアデザインに応じた働き方の選択不可（職種一律での給与モデル）	1.2025年に向けてのデイサービスとして新たな多様なサービスを提供することを目標としたが情報収集までで分析と提案までには至らず。 2.個別の行うレクも若干名を行うことが出来たが全体には行えず全てのご利用者様が満足できたとは言えない。職員が付き添って行う個別レクは人員配置から困難であった。 3.ICTを用いたレクの記録は実際には行えず現状の紙ベースでの記録となってしまった。 4.上記内容から満足したサービス提供は出来ず。ただし年度末にかけては稼働率が上がり上昇傾向となった。

<b>法人目標/法人・事業所・個人の『強み』を理解（分析）し行動に移す。</b> 『強み』を正確に理解（知る）し、寒川ホームの経営・運営・ライフデザインに活用する。【歓喜・革新】 『強み』を活かし選ばれるサービス（稼働率アップ）提供・人材定着（採用）・地域貢献活動を実施する。【歓喜・革新・開花】
--

<b>通所介護 事業目標</b>	1.生産性の向上を図る。【歓喜・革新】 2.事業所の強み（長所・特色）を確固たるものにする。【歓喜・革新・開花】 3.デイサービスの媒体を活かした地域貢献。【革新・開花】
<b>具体的な達成（目標）数値</b>	1.下記①～③をすべて実施し、前年度より人件費率の減少+退職者人数の減少が達成されている。 ①多様な雇用形態を活かす為、既存のサービス提供方法を変更。 ②1on1面談・チームミーティングを3カ月に1回実施 ③ICT（記録・レク・連携手段等）の導入 2.9月・2月にケアマネ向けにアンケートを実施。強みを活かしたサービスの周知が9月・2月共に100%の返答を受ける事ができている。 3.地域貢献を立案。最低1つは実施する。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 動態改善・ICT活用 1on1面談1-①	業務の整理を一部行い、一部のスタッフへの負担や偏りを無くした。 面談・ICT化は未実施。	7月 1on1面談2-①	新規職員3名のみ面談実施し目標・強み・弱みの確認。 曜日別対抗レクを初開催。利用者より高評価であった為、デイの特色として継続していく事を決める
5月 絆Core記録への移行	絆コアへの移行のメリット・デメリットを洗い出し。移行は行っていない。	8月 1on1面談2-②	iPadをテレビと繋ぐことで、他の方が取り組むレクを話されていてもみる事ができるようなる。
6月 4～6月強みを確立 チームミーティング	レクリエーションや休養を動画で撮影し、事業所内で共有する事を開始。 事業所会議開催し、事業所の強みを検討。「楽しい」「癒やが」「介護・身体状況にとらわれないサービス提供」等あがったが決定は持ち越し。	9月 強み確認アンケート チームミーティング	アンケートは未実施。 事業所会議にてデイの強みを「楽しいデイ」で決定。
<b>上半期評価</b>	計画していた面談を通しての強みを伸ばす事や弱みを克服する事に結び付けられていない。業務内容や動態の見直しにより効率化は行えており生産性のUPに繋がっていると評価。		
10月 オンライン慰問の検討 1on1面談3-①	個別機能訓練の肯定を開始。 レクリエーションのZOOMにて開催されたレクを実施できた。利用者の反応は、良いものではなかった。（画像の大きさ・音・テンポ等課題あり）	1月	事業計画に沿った取り組みは未実施
11月 1on1面談3-②	事業計画に沿った取り組みは未実施。	2月 強み確認アンケート	事業計画に沿った取り組みは未実施
12月 チームミーティング	コロナの影響により取り組みなし。 臨時休業の連絡が電話のみとなり、情報の伝達に時間がかかり効率でない課題が露呈した。	3月 年度の振り替わり	事業所会議を実施。年度の振り返りを行う。
<b>下半期評価</b>	強みを売り出す事ができず。コロナ拡大や数名の退職者も原因と考えられるが、一番は具体的でない強みとしてしまった事にある。再検討が必要である。		

<b>実績・達成度（目標との比較）</b>	楽しいデイサービス＝レクリエーションの充実として、プログラムの拡大と委積を行えた。各職員が情報を集め近年になかったプログラムを多数実施できた事は来年度以降につながる取り組みとなった。個別面談は、職員の定着や自己研鑽には結び付かず。ICTの取り組みも単発となり継続性に欠けた。事業所として同時に多数は取り組めないため、目標を絞って着実に実施していく事が次年度は必要。 稼働率は前年より増加したが、強みの周知とは結び付かず。安定した稼働率を維持する為には、強みの確立は次年度でも取り組む必要がある。
-----------------------	--

# 令和4年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 訪問介護 事業計画書・報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	木藤	船山

<b>理念</b> すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	<b>方針</b> 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

<b>令和3年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）</b> 1.稼働率の低下および※低迷（介護老人・訪問・※通所） 2.退職者の増加（26名/年）と応募者の増加（56名/年） 3.ICT・介護ロボットの積極的導入（勤怠管理システム・タブレット記録システム・LINEWORKS等） 4.内部監査・顧客満足度調査・運営状況監視システムの確立 5.外国人スタッフ・介護助手・就労訓練事業者の採用と定着 6.キャリアデザインに応じた働き方の選択不可（職種一律での給与モデル）	<b>令和3年度 事業所の振り返り（評価）</b> 1.専門職として必要な10項目中8項目の勉強会を開催することで、基礎の学びを高めることに繋がった。 2.サービス手順書内容変更の提案は目標を意識して取り組んだが、目標値達成には至らなかった。 (25件/年) 3.ICTを活用した家族への情報提供は、該当ご利用者がなく未実施。
--	---

<b>法人目標/法人・事業所・個人の『強み』を理解（分析）し行動に移す。</b>	
『強み』を正確に理解（知る）し、寒川ホームの経営・運営・ライフデザインに活用する。【歓喜・革新】	
『強み』を活かし選ばれるサービス（稼働率アップ）提供・人材定着（採用）・地域貢献活動を実施する。【歓喜・革新・開花】	

<b>訪問介護 事業目標</b>	1.ヘルパー全員が寒川ホーム訪問介護の強みを共通認識できている状態にする。【歓喜】 2.ICTを活用し、業務のスリム化を図ることで、さらなる顧客獲得ができるようになる強みを生み出す。【革新・開花】 3.アセスメント能力・洞察力を上げ、積極的に情報発信をすることで、新たなサービス提供に繋げる。【歓喜】
<b>具体的な達成（目標）数値</b>	1.毎月の会議で個人の強み・事業所の強みを議題に組み込んで周知や勉強会を行う。（1回/月） 2.ICT：導入（上半期）・活用することで業務効率を上げ、サービスの安定的な提供に繋げる。（250万円/月） ケース会議・事業所会議の内容・運営方法の効率化（時間数削減：60分以内・出席率：8割以上） 3.アセスメント能力・洞察力が上がる研修等を事業所内で実施する。（6回/年）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 感染症予防 食中毒	感染症・食中毒予防の対策には、ご利用者本人のみでなく、家族の理解・協力も必要であることを学び、情報共有のために記録書などでの「情報の見える化」の必要性の認識の一致に繋がった。	7月 認知症 精神疾患	認知症ケアに正解はないが、ケアするヘルパーもケアされる利用者も心穏やかにいるために「お互いのためにストレスにない関わり方を探る」勉強会となった。
5月 看取り ターミナルケア	「医療職ではない自分たちに何が出来るのか？」と検討。「利用者の変化に気づき、その情報を伝える重要な役割を担っている」「利用者や家族の抱える不安等を緩和することが重要」との結論に至った。	8月 リスクマネジメント	※施設内のコロナ感染発生状況により、事業所会議・勉強会の実施は中止とした ※リスクマネジメントの勉強会は3月に振り替えて実施
6月 脱水・熱中症 ICT化導入	脱水症・熱中症は重症化すると死に至る危険もあることを学び、ヘルパーの役割を見直し、利用者内の脱水・熱中症の発症はほぼなかった。 ※ICT化導入についてはLINEWORKSの活用状況を確認するに留まった。	9月 医療的ケア 薬の理解	「ヘルパーができる行為と条件」「医療行為と紛らわしい行為と介護業務」などを確認。薬の理解は服薬介助を中心に学び、安全に服薬していただくための注意点やポイントを押さえて業務に臨むように意識付けができた。
<b>上半期評価</b>	・ICT化の導入を模索しているが、タブレット活用のイメージと現状との差を埋められていない ・8月以外は毎月の事業所会議を実施できているが、個人や事業所の強みの周知には繋がっていない		・事業所会議の頻度・時間を変更しての開催へ変更し、概ね計画通りに実施できており、効率化に繋がっている ・月1回の勉強会以外の事業所内研修は行っていない
10月 職業倫理	倫理と併せて法令遵守についても学び「些細なことでも法令を守る」という倫理観が必要だとの共通認識となる。みんなが守って来た1人の違反で事業所のイメージが悪くなること、周囲に迷惑がかかることも認識できた。	1月 糖尿病	※勉強会内容は12月予定の「個人情報の取扱」を振替実施 個人情報漏洩などのリスクがどこにあるのか認識の共有ができた。訪問介護ならではの「自分の個人情報を守る」ことについても学ぶことができた。
11月 身体的拘束 虐待	訪問介護は業務の特性から、身体的拘束や虐待に早期に気づく役割を担っていることを確認できた。 日々の活動の時間の中でできることは何かについても検討・共有することができた。	2月 調理実習 (簡単調理・制限食)	※勉強会内容は1月予定の「糖尿病」を振替実施 高齢者の糖尿病の特徴・治療・生活の問題について学ぶことができた。糖尿病の食事療法のポイントを実際のご利用者を挙げて、具体的に確認することができた。
12月 個人情報の取扱	※施設内のコロナ感染発生状況により、事業所会議・勉強会の実施は中止とした ※個人情報の取扱の勉強会は1月に振り替えて実施	3月 最新の福祉用具 の理解	※勉強会内容は8月予定の「リスクマネジメント」を振替実施 訪問介護の特徴的な介護事故とその対策を学ぶことで、他サービスとは異なる視点を持って事故を考える必要があることを共通認識とすることができた。
<b>下半期評価</b>	・月1回の勉強会以外の事業所内研修は行っていない ・積極的な情報発信により新たなサービス提供に繋がった		・12月以外は毎月の事業所会議を実施できている ・勉強会は1月から予定とは異なり、未実施内容内より振替で実施した ・認知症ステップアップ研修に所属の全ヘルパーが出席することができた

**実績・達成度（目標との比較）**

- ・毎月の事業所会議を前年度より時間短縮し効率的に実施することができた（施設内コロナ感染発生に伴う2回の中止あり）
- ・ICT化は、タブレット使用と現状の差が埋められず、業務効率化に繋がる具体的な取り組みには至らなかった ・月1回の勉強会以外の事業所内研修は実施できなかった
- ・請求金額：250万円/月は年度内で一度も達成することはできなかった。平均は206万円/月であった。利用者・活動時間減はあるが、退職者があり、活動可能時間が減ったことも原因

令和4年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 居宅介護支援 事業計画書・報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	石黒	石黒

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
----	-------------------------------------	----	--

令和3年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和3年度 事業所の振り返り（評価）
1.稼働率の低下および※低迷（介護老人・訪問・※通所） 2.退職者の増加（26名/年）と応募者の増加（56名/年） 3.ICT・介護ロボットの積極的導入（勤怠管理システム・タブレット記録システム・LINEWORKS等） 4.内部監査・顧客満足度調査・運営状況監視システムの確立 5.外国人スタッフ・介護助手・就労訓練事業者の採用と定着 6.キャリアデザインに応じた働き方の選択不可（職種一律での給与モデル）	1.他事業所との会議は年3回開催できた。コロナ禍で年6回は開催できず。会議後は当事業所で振り返り、他事業所が陥りやすい課題を共有して再確認できた。吸収する取り組みはなかった。 2.職員同士で書類を確認し合うことで、不備に気付き理解を深めることができた。会議や平時から情報を共有して月1回以上は達成できた。管理表チェックは途中管理者が管理して適宜催促した。 3.タブレットが支給されたことでICTによる加算を算定することができて取り扱い件数を44件に引き上げた。しかし、業務効率化や負担軽減は見出せず意識が薄れ、実績件数は38件に留まった。

<b>法人目標/法人・事業所・個人の『強み』を理解（分析）し行動に移す。</b> 『強み』を正確に理解（知る）し、寒川ホームの経営・運営・ライフデザインに活用する。【歓喜・革新】 『強み』を活かし選ばれるサービス（稼働率アップ）提供・人材定着（採用）・地域貢献活動を実施する。【歓喜・革新・開花】	
--	--

居宅介護支援 事業目標	1.各ケアマネジャーが自分の強みや他者の強みを把握して事業所内で統一する。【歓喜】 2.ICT活用により業務効率化と負担軽減を見出して定着する。【歓喜・革新・開花】 3.居宅ケアマネ事業所独自の地域貢献活動を実施する。【歓喜・開花】
具体的な達成（目標）数値	1.事業所会議で『ケアマネ自己評価シート(案)』を作成して事業所内で周知・勉強会を開催する。（月1回） 2.現状分析と課題を抽出する（5個以上）。ICTでできることの中から優先付けして実施と検討を繰り返す。（月1回） 3.居宅ケアマネ事業所独自の地域貢献活動の考案と実施を行う。（年1回）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 1.目標を理解 2.3.取り組みなし	1.2回にわたり取り組み内容を協議して方向性を確認することができた。 2.3.取り組みなし	7月 1.今後の取り組み方法を再検討 2.外出先での記録（音声）入力（モニタリング・支援記録）	1.都合により再検討できず。 2.事業所でタブレットの操作方法を学習した。操作は可能で今後入力を重ねれば身に付くと判断する。
5月 1.『分析シート（事業所用・個人用）』を作成 2.研修終了後開始 3.新規利用受講まで保留	1.作成できていない。最初は事業所の強みと弱みから作成する。 2.研修終了直後で取り組めていない。サービス利用票・別表から作成する。	8月 1.今後の取り組み方法を再検討 2.今後の取り組み方法を検討	1.新規利用者受諾開始時期に事業所の宣伝を地域包括支援センターに行う。 2.タブレットに通信機能の是非を法人と話し合う。
6月 1.『分析シート（事業所の強み・弱み）』を作成 2.タブレットでサービス利用票・別表を作成	1.分析シート（事業所の強み・弱み）完成。今後の取組方法を検討。 2.できていない。再度取組方法を説明して理解した。	9月 1.2.再検討	1.他の取り組みを検討。上半期に取り組んだ検討を今後振り返る。 2.話は進まず他の取り組みを検討。サービス提供票・別表の提出方法の見直し中で事業目標に値することから取り組む。
上半期評価	事業目標-強みは事業省に焦点を当てて把握できた。学習し続けることが法人の経営に直結する。ICTは常に検討して定着へ向けた動きができていく。地域貢献活動に悩んだ為、強みを意識して内容を検討する。 達成数値-取り組む中で計画を修正・変更したことで達成数値すら計画とは異なってしまった。3. に関しては取り組みが停滞している為、下半期に実施して評価できるように取り組む。		
10月 1.勉強会の振り返り 2.提供票の交付方法変更 3.地域貢献活動を計画	1.上半期の勉強会より他のテーマで勉強会を開催した。 2.試行錯誤中で調査は交付方法が確定した段階で行うことにした。 3.小谷地域集会所でパルククラブに対して説明交流会を企画した。	1月 1.勉強会の開催 2.提供票と情報通信機器の取組 3.依頼文の完成と代表者へ接触	1. 4回研修報告を行う。残りの研修報告は4つある。優先に実行する。 2. 調査する予定だったが取り組む必要性は低く今回で終結する。試行したことで成果と課題が浮き彫りになる。現時点ではこれ以上の取り組みなく終結する。 3. 田端地区での講演会に取り組み内容を変更する。
11月 1.勉強会の開催 2.提供票と情報通信機器の取組 3.依頼文の完成と代表者へ接触	1.勤務状況や業務を優先して1回しか開催できず。 2.試行錯誤中で調査（費用や手間）は交付方法が確定した段階で行うことにした。 1か月間試行した。 3.別の企画を検討したが見送り当初の企画で進行することにした。	2月 1.勉強会の開催 2.田端地区の講演会に出席	1.勤務の都合上実施できず。 2.14日に木藤CMと石黒CMが出席する。当月をもって取り組みは終了する。
12月 1.勉強会の開催 2.提供票と情報通信機器の取組 3.依頼文の完成と代表者へ接触	※施設で感染症が蔓延したことから計画は停止して翌月に持ち越した。	3月	
下半期評価	事業目標-強みは勉強会を中心に実施した。後半は研修報告が続き業務の都合上完了せず終了した。ICTを機に他業務の見直しも実施できた。定着は取り組んだ内容で異なった。地域貢献活動は実施できた。 達成数値-取り組む中で計画を修正・変更したことで達成数値は異なった。3. は2月に実施して達成できた。		



**実績・達成度（目標との比較）**

1. 上半期の段階で目標を見直しで事業所内で新たな計画を取り組んだ。目標を変更した段階で新たな達成数値を設定する必要があった。
2. ICT活用は職員の理解や目標達成に近づくまでの成果が顕著に表れず。それでも実施と検討を繰り返して一定の成果を挙げることはできた。定着はできなかったが他業務で成果を挙げることはできた。
3. 法人への依頼を当事業所が担い講演会を実施することができた。今後は他ケアマネジャーが参加する、小谷地区での実施等を検討して地域貢献活動を定着できるようにする。